

第9回 学術知共創プロジェクトワークショップ

～分断社会の超克～

テーマ代表者：稲場圭信 大阪大学大学院人間科学研究科教授



文部科学省委託事業
人文学・社会科学を軸とした
学術知共創プロジェクト



大阪大学
OSAKA UNIVERSITY



平和へのアプローチ

— 学問と実践の共創 —

2022.03.22 Tue. 13:00-16:00

社会における分断は、当事者・周囲・コミュニティ・国家などが無秩序な関係性の上で複雑化して存在しています。それらには文化や宗教、経済的構造も深く関与し、課題解決を困難にしています。そうした分断の構造を乗り越えていくために、学問にはどのような貢献ができるのか？何を探究していくべきなのか？このような問題意識から、今回のワークショップでは、「平和へのアプローチ」というテーマで、海外における紛争や難民などの課題を例に、実践と共創できる知的挑戦について議論します。

●オンライン開催 ●参加費：無料 ●定員：参加(甲)：9名／参加(乙)：最大15名程度

※参加方法の詳細はホームページをご覧ください

事前申込は
こちらから

▶ 公募期間 ◀

2022年2月25日
～3月17日

参加者用



or

クリック

視聴者用



or

クリック

分断社会の超克

平和へのアプローチ —学問と実践の共創—

社会における様々な分断を乗り越えていくために人文学・社会科学がいかに貢献できるのか、「平和へのアプローチ」というテーマのもと、海外における紛争や難民などの課題を例に、徹底討論します。

■テーマ代表者：稲場圭信 大阪大学大学院人間科学研究科 教授

1969年生まれ。専門は、共生学、宗教社会学。主な研究テーマは、防災・災害時協力と宗教、利他主義・市民社会論、ソーシャル・キャピタルとしての宗教、宗教の社会貢献。大阪大学「社会ソリューションイニシアティブ(SSI)」兼任、基幹プロジェクト「地域資源とITによる減災・見守りシステムの構築」研究代表。学校、公民館、寺、神社、自治会といった「地域資源」と「科学技術」のコラボレーションによる新たな減災・見守りシステムの構築に取り組む。



プログラム

- 13:00 WS案内 小出直史 大阪大学SSI 特任准教授
- 13:05 開会挨拶 堂目卓生 大阪大学SSI長/プロジェクトマネージャー
- 13:15 イントロダクション 稲場圭信 大阪大学大学院人間科学研究科 教授
- 13:25 話題提供 & 全体討議

モデレーター

片柳真理 広島大学大学院人間社会科学研究所 教授
桑島秀樹 広島大学大学院人間社会科学研究所 教授

話題提供① 吉田修 広島大学大学院人間社会科学研究所 教授
『「与える」から「学ぶ」へ：研究者が関わるミンダナオの平和構築』

話題提供② 奥本京子 大阪女学院大学国際・英語学部 教授
「平和紛争学における芸術アプローチ：東北アジアでの実践から」

話題提供③ 米川正子 明治学院大学国際平和研究所 研究員
NPO法人RITA-Congo 共同代表
「下の視点から平和を考える：難民、国連PKO、グローバル社会」

- 14:55 閉会挨拶 稲場圭信

話題提供 & 全体討議 | 話題提供者



吉田 修 Osamu Yoshida

広島大学大学院人間社会科学研究所 教授

南アジアを主たるフィールドとしつつ、発展途上国から見た国際政治、発展途上国の政治などを研究している。特に、インドと米国との関係を見ていく中で、国際社会が1950年代末から1960年代にかけて「発展途上国」というカテゴリーを「発見」していく過程に関心をもつようになる。また、「進んだ国が遅れた国に与える」というニュアンスを持つ「開発援助」に疑問を持っていたこともあって、広島県やJICA等と連携して行う研究活動を通じて考察を深めたフィリピンのミンダナオ紛争の平和構築過程にJICA草の根技術協力事業によって研修プログラムを作成、2013年から6年間、「学び合いながらともに作り出す自治政府」を目指して広島県とともに取り組んだが、いまだに模索中。



奥本 京子 Kyoko Okumoto

大阪女学院大学国際・英語学部 教授

専門領域は、平和紛争学、紛争転換学、ファンリテーション研究など。特に、東北アジアにおける平和創造を、平和ワークにおける芸術アプローチを通じて模索している。また、アジアそして他地域におけるネットワークを深化させることにも注力する。ワークショップの手法により如何に関係性を深化させることが可能かの追求や、市民社会・NGOによる平和活動を実践している。主な著書に、『平和ワークにおける芸術アプローチの可能性』、『平和創造のための新たな平和教育』(共編著)、『国際共生と広義の安全保障』(共著)、訳書に、『ガルトゥング紛争解決学入門』(共監訳)など。



米川 正子 Masako Yonekawa

明治学院大学国際平和研究所 研究員
NPO法人RITA-Congo 共同代表

南アフリカ・ケープタウン大学大学院で修士号取得(国際関係)。専門は難民、紛争と平和、人道支援(特にコンゴ民主共和国とルワンダ)。国連ボランティアとしてカンボジア、リベリア、タンザニアなどで活動。国連難民高等弁務官事務所(UHCR)職員として、ルワンダ、コンゴ、ジュネーブなどで勤務。宇都宮大学、立教大学、筑波学院大学で教鞭をとった後、現在、明治学院大学国際平和研究所研究員、NPO法人RITA-Congo共同代表。主著に『あやつられる難民—政府、国連、NGOのはざままで』(ちくま新書、2017年)、『世界最悪の紛争「コンゴ」～平和以外に何でもある国』(創成社、2010年)、Post-Genocide Rwandan Refugees, Why They Refuse to Return 'Home': Myths and Realities (Springer, 2020)。

話題提供 & 全体討議 | モデレーター



片柳 真理 Mari Katayanagi

広島大学学術院 教授
大学院人間社会科学研究所国際平和共生プログラム
プログラム長
広島大学平和センター 副センター長

在ボスニア・ヘルツェゴビナ日本大使館一等書記官、ボスニア・ヘルツェゴビナ上級代表事務所政治顧問、JICA研究所主任研究員等を経て2014年4月広島大学大学院国際協力研究科准教授就任、2015年4月同教授。国際法を基礎に平和構築を研究テーマとし、現在はビジネスを通じた平和構築、ボスニア・ヘルツェゴビナ紛争中の教育などを研究している。著書に単著Human Rights Functions of United Nations Peacekeeping Operations (Martinus Nijhoff Publishers)、近刊の共著『平和構築と個人の権利—救済の国際法試論』(広島大学出版会)など。



桑島 秀樹 Hideki Kuwajima

広島大学大学院人間社会科学研究所 教授
人間総合科学プログラム 副プログラム長

1970年生まれ。専門は、美学・芸術学・感性文化論。18世紀のイギリス思想史・芸術史研究を基礎に、趣味と共同体、風景と歴史、崇高と生の問題をつつとあつかう。アイルランド的感性文化の核心に「メタモルフォーシス」や「インターフェイス」を認め、現代文明の批判や生きる技法への応用を考えている。2011-12年アイルランド共和国 Trinity College, Dublin(歴史学)客員研究員。主著に、『崇高の美学』(講談社)、『生と死のケルト美学』(法政大学出版局)、『司馬遼太郎 旅する感性』(世界思想社)など。



文部科学省委託事業

人文学・社会科学を軸とした
学術知共創プロジェクト



社会ソリューションイニシアティブ (SSI)
SOCIAL SOLUTION INITIATIVE